



## CHAPTER 2

# 設置および初期設定

---

この章では、最初に Cisco 3350 モビリティ サービス エンジンを設置および設定する方法について説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「必要なツールと情報」 (P.2-2)
- 「Cisco 3350 の物理的な場所の選択」 (P.2-3)
- 「モビリティ サービス エンジンの開梱」 (P.2-6)
- 「ラックへの Cisco 3350 の取り付け」 (P.2-7)
- 「前面パネルと背面パネル」 (P.2-10)
- 「CLI コンソールの接続と使用」 (P.2-18)
- 「モビリティ サービス エンジンの電源投入」 (P.2-18)
- 「モビリティ サービス エンジンの設定」 (P.2-18)
- 「NTP サーバの設定」 (P.2-26)
- 「モビリティ サービス エンジンの起動」 (P.2-27)
- 「モビリティ サービス エンジン ソフトウェアの状態の確認」 (P.2-27)
- 「モビリティ サービス エンジン ソフトウェアの手動による停止」 (P.2-28)
- 「モビリティ サービス エンジン ソフトウェアの更新」 (P.2-29)
- 「失った root パスワードの回復」 (P.2-31)



(注)

初期設置以外の設定の詳細については、適切なモビリティ サービス コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps9742/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps9742/tsd_products_support_series_home.html)

---

## 必要なツールと情報

この項では、モビリティ サービス エンジンの設置と設定に必要な必須のハードウェア、ソフトウェア、およびその他の情報を示します。

### 必須のハードウェア：

EIA ラックにモビリティ サービス エンジンを設置するには次の装置が必要です。

- モビリティ サービス エンジン
- ネットワーク ケーブル
- 標準の EIA ラック内の 1 ラック ユニット (RU)
- ラック マウント キット (製品に同梱)



(注) この装置をネジ穴ラックに設置する場合は、ネジ穴ラックに合ったネジと、それらのネジに適したドライバまたはトルクス ドライバを使用する必要があります。

## CLI コンソールの要件

モビリティ サービス エンジン コンソールに接続するには次の装置が必要です。

- CLI コンソール ラップトップ、デスクトップ、またはバームトップ上の VT-100 ターミナルエミュレータ



(注) ラップトップ、デスクトップ、またはバームトップへの接続を提供するヌル モデム シリアル ケーブルは、モビリティ サービス エンジンに付属しています。



(注) モビリティ サービス エンジン、Cisco WCS およびコントローラ リリースのリリース別の互換性については、最新の『*Release Notes for Cisco 3300 Series Mobility Services Engine*』を参照してください。  
[http://www.cisco.com/en/US/products/ps9742/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps9742/prod_release_notes_list.html)

## システム設定パラメータ

ネットワーク管理者から次のパラメータを取得してください。

- モビリティ サービス エンジンのホスト名
- モビリティ サービス エンジンのブロードキャスト アドレス
- イーサネット 0 (eth0) ポート (モビリティ サービス エンジンの背面パネル) の IP アドレス
- eth0 IP アドレスのネット マスク
- eth0 デフォルト ゲートウェイの IP アドレス
- イーサネット 1 (eth1) ポート (モビリティ サービス エンジンの背面パネル) の IP アドレス (インストール オプション)
- eth1 IP アドレスのネット マスク (eth1 がインストールされている場合のみ必須)

- eth1 デフォルト ゲートウェイの IP アドレス (eth1 がインストールされている場合のみ必須)



(注)

イーサネット 0 またはイーサネット 1 ポートを使用して、場所のアップデートを Cisco WCS へ送信できます。ただし、イーサネット 0 ポートは、一般的に Cisco WCS と通信するように設定され、イーサネット 1 ポートは、一般的にアウトオブバンド管理用に使用されます。どちらのポートも、「[モビリティ サービス エンジンの設定](#)」(P.2-18) に記載されている設置スクリプトの一部として設定されません。

## Cisco 3350 の物理的な場所の選択

最大限の安全性と信頼性を確保するため、次のガイドラインを使用して、モビリティ サービス エンジンを取り付けます。

### 一般的な注意事項

怪我やモビリティ サービス エンジンの破損を防止するため、次の点に注意してください。

- 製品は、ラジエータ、ヒート レジスタ、ストーブ、アンプ、またはその他の熱を発生する製品から離れた場所に配置してください。
- 湿気の多い場所では、製品を使用しないでください。
- 製品の開口部から異物を入れないでください。
- 感電による怪我を防止するため、製品のラックを開けないでください。

### レーザー デバイス

レーザー デバイスは、モビリティ サービス エンジンの DVD 内で使用されます。お客様のサイトでの DVD の使用法は定義されていません。

危険なレーザー光にあたらないようにするには、次の点に注意してください。

- レーザー デバイスのラックを開けようとししないでください。ユーザが保守できるコンポーネントは収納されていません。
- レーザー デバイスに対して、ここに指定されている以外の制御、調整、および手順を行わないでください。
- レーザー デバイスを修理できるのは、シスコ認定のサービス技術者だけです。

### スペースおよびエアフロー要件

標準の EIA ラックにモビリティ サービス エンジンを設置します。各モビリティ サービス エンジンに 1 個のラック ユニットが必要です。

モビリティ サービス エンジンおよびすべてのケーブルにアクセスできることを確認します。

- モビリティ サービス エンジンが 10/100/1000BASE-T ポートに接続された機器に対して 328 フィート (100 m) 相当の距離以内であることを確認します。
- 電源コードが、アースされている 110 または 220 VAC のコンセントに届くことを確認します。

モビリティ サービス エンジンの背面にすべてのケーブルおよびコネクタが収まる十分なスペースがあることを確認します。

- ラックの前側に 63.5 cm (25 インチ) 以上の空間を確保します。
- ラックの後ろ側に 76.2 cm (30 インチ) 以上の空間を確保します。
- ラックの背面から、別のラックまたはラックの列の背面まで、121.9 cm (48 インチ) 以上の空間を確保します。



**注意**

不十分な冷却や装置の損傷を防止するため、通気口を塞がないでください。



**注意**

ラック内の縦の空きスペースを埋めるため、必ずブランク パネルを使用します。これにより、適切なエアフローを確保できます。ブランク パネルなしでラックを使用すると、冷却が不十分になり、温熱損傷を引き起こすおそれがあります。



**注意**

使用するラックを選択する場合は、適切な通気を確保し、装置への損傷を防ぐため、次の要件に従います。(1)・前面扉および背面扉：42U ラックに閉じた状態の前面扉および背面扉が含まれている場合、適切な通気（換気に必要な 64 % 開口に相当）を確保するために、ラックの先頭から下部まで、5,350 cm<sup>2</sup> (830 平方インチ) の穴を均等に配分する必要があります。(2) 側面：設置したラック コンポーネントとラックのサイド パネルの間は、7 cm (2.75 インチ) 以上空けてください。

## 温度要件

装置が安全で正常に動作するように、通気がよく温度管理の行き届いた場所にシステムを設置または配置してください。

装置をラックに設置した場合の温度上昇を考慮に入れて、動作温度が 0 ~ 40 °C (32 ~ 104 °F) であることを確認してください。



**注意**

他社製オプションを設置する場合は、装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。(1)・オプションの装置によって、モビリティ サービス エンジン周辺の通気を妨げたり、ラック内部の温度が最大値を超えたりしないようにしてください。(2)・製造元の TMRA を超えないようにしてください。

## 電力要件

この装置は、情報テクノロジー装置の設置について規定した、ご使用の地域の電気規格に従って資格のある電気技師が設置する必要があります。この装置は、NFPA 70、1999 Edition (National Electric Code)、および NFPA-75、1992 (Code for Protection of Electronic Computer/Data Processing Equipment) で規定されているシステム構成で動作するように設計されています。オプションの電気定格については、製品の定格ラベルまたはそのオプションに付属のユーザ マニュアルを参照してください。

**注意**

モビリティ サービス エンジンに不安定な電源および一時的な停電から保護するために、規定の無停電電源装置 (UPS) を使用してください。UPS は、電源サージや電圧スパイクによって発生する損傷からハードウェアを保護し、停電中でもシステムが動作を継続できるようにします。

複数のモビリティ サービス エンジンを設置すると、すべてのデバイスに安全に電力を供給するために追加の配電デバイス (PDU) を使用する必要があります。次のガイドラインに従ってください。

- 使用可能な AC 電源の分岐回路間で、モビリティ サービス エンジンの電力負荷のバランスを取る必要があります。
- システム全体の AC 電流の負荷が分岐回路 AC 電流定格の 80 パーセントを超えないように注意してください。
- この装置には、一般用の電源コードを使用しないでください。
- モビリティ サービス エンジンに個別の電気回路を用意します。

## モビリティ サービス エンジンの電源

モビリティ サービス エンジンには電源装置が 2 台あります。

**警告**

この装置には複数の電源装置接続が存在する場合があります。すべての接続を取り外し、装置の電源を遮断する必要があります。ステートメント 1028

**注意**

モビリティ サービス エンジンに接続された外部電源が、電気定格ラベルに示されている電源のタイプと一致することを確認します。必要な電源の種類が不明な場合は、シスコ認定リセラーまたは現地の電力会社にお問い合わせください。

## バッテリー

モビリティ サービス エンジンには、過塩素酸塩が含まれているリアルタイム クロック バッテリーまたはコインセル バッテリーが搭載されている可能性があり、カリフォルニア州でリサイクルまたは廃棄処分にするときは特別な取り扱いが必要になる場合があります。

廃棄処分の情報については、次のリンクを参照してください。

<http://www.dtsc.ca.gov/hazardouswaste/perchlorate>

**注意**

バッテリーを一般の家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。バッテリーのリサイクルには、公共の回収システムを使用してください。

## アース要件

モビリティ サービス エンジンは、動作と安全を確保するため、適切にアースする必要があります。米国では、NFPA 70、1999 Edition (National Electric Code)、Article 250 のほか、地域の建築基準法に従って装置を設置する必要があります。カナダでは、カナダ規格協会の CSA C22.1、Canadian

Electrical Code に従って装置を設置する必要があります。その他のすべての国では、国際電気標準会議 (IEC) Code 364、Part 1 ~ 7 など、地域または国内の電気配線規制に従って装置を設置する必要があります。

さらに、設置に使用する分岐配線やコンセントなどのすべての配電デバイスが、記載された、または認証されたアースタイプデバイスであることを確認してください。同一電源に複数のシステムを接続すると、高い漏れ電流が発生するため、シスコでは、建物の分岐回路に永久的に配線されている PDU、または工業用プラグに配線される切り離し不可能なコードが装着された PDU を使用することを推奨しています。NEMA ロック式プラグや、IEC 60309 に準拠したプラグは、この目的に適合していると思なされます。モビリティ サービス エンジンに一般用の電源コードを使用することは推奨されません。

## ラックに関する警告



**警告**

ラックへのユニットの設置や、ラック内のユニットの保守作業を行う場合は、負傷事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。次のガイドラインは、安全に作業を行ってもらうために用意してあります。(1) この装置は、ラックに 1 つだけの場合は、一番下に搭載するようにしてください。(2) ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置が一番下に設置して、下から順番に取り付けます。(3) ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックへの装置の設置やラック内の装置の保守を行ってください。ステートメント 1006



**注意**

ラックを荷降ろしするときは、怪我や装置の破損を防止するため、2 人以上で安全にパレットからラックを降ろす必要があります。



**注意**

破損防止のため、水分や過度の湿気がモビリティ サービス エンジンに入り込まないようにしてください。

## モビリティ サービス エンジンの開梱

モビリティ サービス エンジンを開梱する手順は次のとおりです。

- ステップ 1 梱包箱を開いて、中味を慎重に取り出します。
- ステップ 2 梱包資材をすべて箱に戻して保管しておきます。
- ステップ 3 「パッケージの内容物」の項に記載されているすべての品目が揃っていることを確認します。
- ステップ 4 各品目に破損がないことを確認します。内容物が破損または不足している場合は、シスコの営業担当者にご連絡ください。

### パッケージの内容物

各モビリティ サービス エンジン パッケージは次のとおりです。

- 1 台の Cisco 3350 モビリティ サービス エンジン

- ラック マウント キット X 1
- 電源コード
- コンソール接続用の DB9-RJ45 ケーブル
- RJ45-DB9 アダプタ
- 本書 (『Cisco 3350 モビリティ サービス エンジン スタートアップ ガイド』)

## ラックへの Cisco 3350 の取り付け

**警告**

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030

**注意**

このモビリティ サービス エンジンは非常に重量があります (17 kg、37 ポンド)。

怪我や装置の破損を防止するため、次の点に注意してください。

- 資材の取り扱いについては、地域の職業安全衛生要件およびガイドラインに従ってください。
- 設置や取り外しのためにモビリティ サービス エンジンを持ち上げ、安定させる場合は、手助けを受けることが推奨されます (システムがレールに固定されていない場合は特に)。
- モビリティ サービス エンジンのラックへの設置やラックからの取り外しは、慎重に行ってください。レールに固定されていないと、装置は不安定になります。
- 必ず、最も重い品目がラックの一番下になるように、ラックの設置を計画してください。最も重い品目を最初に設置して、下から順番に取り付けていきます。

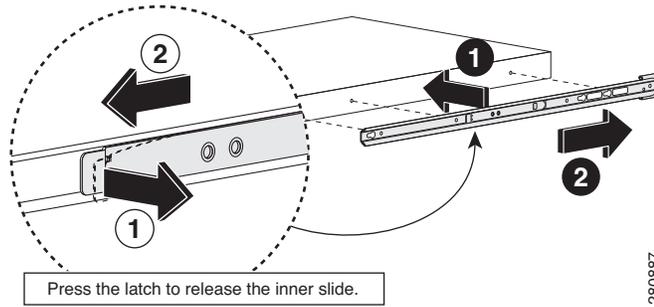
**(注)**

- モビリティ サービス エンジンには、四角穴ラック、丸穴ラック、またはネジ穴ラックに取り付けることのできる、ユニバーサル ラック マウント キットが付属しています。
- 取り付けレールをラックに固定するためのネジ穴用のネジを用意する必要があります。ネジ穴用のネジは、システムに付属していません。

## ネジ穴、四角穴または丸穴のラックへのレール キットの取り付け

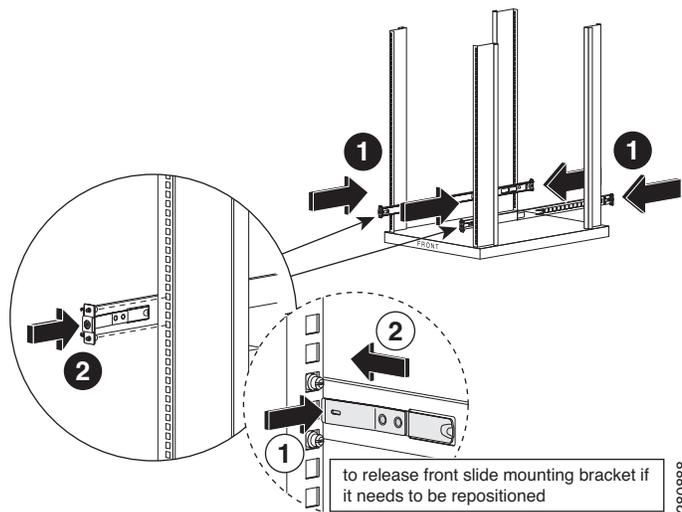
- ステップ 1** 取り付けレールのインナー スライドを解放し、モビリティ サービス エンジンの側面に取り付けます (図 2-1)。図内の番号は、作業の順番を示しています。

図 2-1 モビリティ サービス エンジンにインナー スライド レールを取り付ける



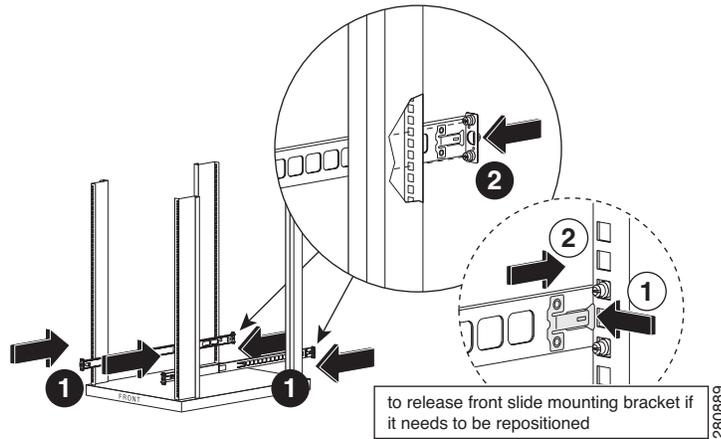
**ステップ 2** モビリティ サービス エンジンが設置されるラック構造の前面にアウター レールを取り付けます (図 2-2)。図内の番号は、作業の順番を示しています。

図 2-2 ラックの前面にアウター レールを取り付ける



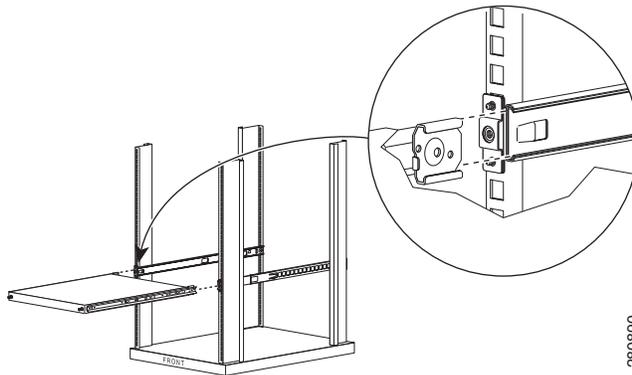
**ステップ 3** モビリティ サービス エンジンがインストールされるラック構造の前面にアウター レールを取り付けます (図 2-3)。図内の番号は、作業の順番を示しています。

図 2-3 ラックの背面にアウター レールを取り付ける



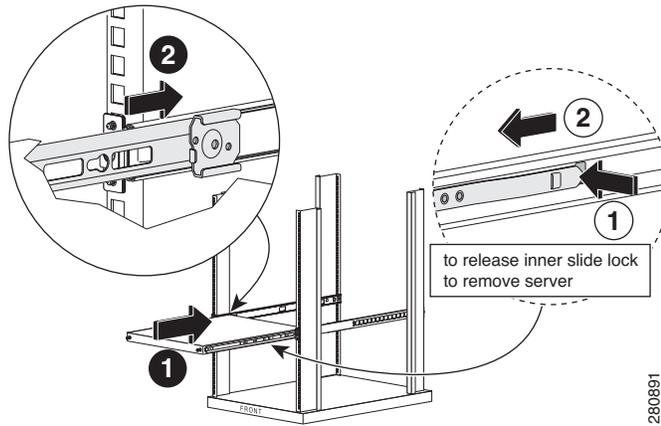
**ステップ 4** ラックに取り付けられているアウター レールにモビリティ サービス エンジンを搭載したインナー スライド レールを取り付けます (図 2-4)。

図 2-4 アウター レールにインナー レールを取り付ける



**ステップ 5** 取り付けしたインナー レールとモビリティ サービス エンジンを実機をラックの背面にスライドします (図 2-5)。図内の番号は、作業の順番を示しています。

図 2-5 システムおよびインナー レールをラックの背面にスライドさせる



## 前面パネルと背面パネル

### 前面パネル

図 2-6 に、Cisco 3350 モビリティ サービス エンジンの前面パネルの全体を示します。

図 2-7 には、Cisco 3350 の前面パネルの詳細を示します。

表 2-1 に、Cisco 3350 の前面パネルのコンポーネントと機能の説明を示します。

図 2-6 Cisco 3350 の前面パネル

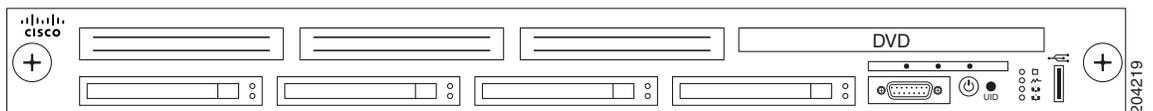


図 2-7 Cisco 3350 の前面パネルのクローズ アップ

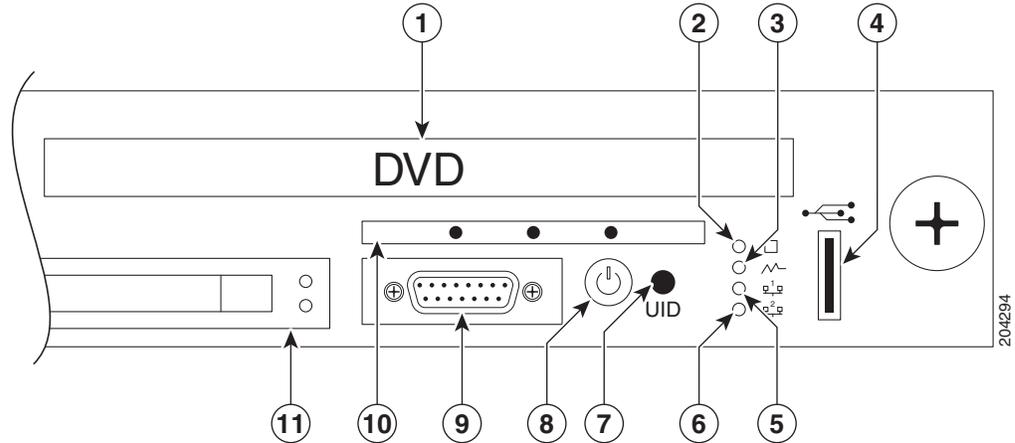


表 2-1 前面パネルのコンポーネント

番号	コンポーネント	説明または LED ステータス
1	DVD ドライブ	カスタマーの使用はありません。すべてのシステムソフトウェアは Cisco WCS を使用してダウンロードされます。
2	システム LED	<p>グリーンはシステム状態が正常であることを意味します。</p> <p>オレンジは、システム状態が低下していることを意味します。特定のシステム情報については、前面パネルから診断カードを引き出します。「<a href="#">診断カード</a>」(P.2-13)を参照してください。</p> <p>レッドは、システム状態がクリティカルであることを意味します。クリティカル状態のコンポーネントを識別するには、前面パネルから診断カードを引き出します。「<a href="#">診断カード</a>」(P.2-13)を参照してください。</p> <p>消灯は、システム状態が正常であることを意味します (スタンバイ モードの場合)。</p>
3	電源モジュール LED	<p>グリーンは電源の配置が正常であることを意味します。</p> <p>オレンジは、電源の冗長性に障害が発生したことを示します。</p> <p>消灯は、スタンバイ モードの場合に、電源装置が正常なことを示します。</p>
4	USB スロット	将来的な使用のために予約されています。

表 2-1 前面パネルのコンポーネント (続き)

番号	コンポーネント	説明または LED ステータス
5	NIC 1 リンク/アクティビティ LED	グリーンはネットワーク リンクがあることを意味します。
		(注) NIC1 は自動インストール スクリプトでイーサネット 0 として識別されます。
		グリーンは点滅は、ネットワーク リンクおよびアクティビティがあることを意味します。
6	NIC 2 リンク/アクティビティ LED	グリーンはネットワーク リンクがあることを意味します。
		(注) NIC2 は自動インストール スクリプトでイーサネット 1 として識別されます。
		グリーンは点滅は、ネットワーク リンクおよびアクティビティがあることを意味します。
7	UID	消灯は、ネットワークへのリンクがないことを意味します。
		(注) 電源がオフの場合、前面パネルの LED はアクティブではありません。背面パネルの NIC2 LED を確認します。「背面パネル」(P.2-15) を参照してください。
		ブルーは、識別がアクティブになっていることを意味します。
8	電源オン/スタンバイ ボタンおよびシステム電源 LED	ブルーの点滅は、システムがリモートで管理されていることを意味します。
		消灯は、識別が非アクティブであることを意味します。
		グリーンはシステムの電源が入っていることを意味します。
9	ビデオ コネクタ (DB-15)	オレンジは、システムはシャット ダウンしているが電源は入ったままになっていることを意味します。
		消灯は、電源コードが接続されていない、電源障害が発生した、電源装置が設置されていない、設備の電源が利用できない、または電源ボタン ケーブルが接続されていない状態です。
		シリアル接続することをお勧めします。このポートに装置を接続しないでください。

表 2-1 前面パネルのコンポーネント (続き)

番号	コンポーネント	説明または LED ステータス
10	診断カード	電源、内部プロセッサ、DIMM、メモリ、温度、およびアラームに関するステータスを提供します。詳細については、「 <a href="#">診断カード</a> 」(P.2-13)を参照してください。
11	ハード ドライブ ベイ (4 の 1)	ハード ドライブは、故障した場合や、シスコのテクニカル サポートからの取り外しの指示がない限り、取り外さないでください。

## 診断カード

図 2-8 には、前面パネルにある診断カードの細部を示します。

表 2-2 には、診断カードによって追跡されているモビリティ サービス エンジンの内部コンポーネントの概要を示します。これらのコンポーネントについて、LED 状態の各定義も集約されます。



(注) この情報は、現在 Cisco WCS 内で集約されていません。

図 2-8 診断カード

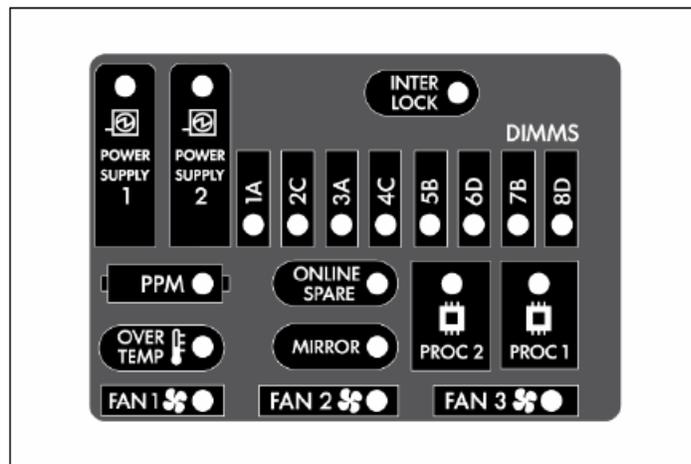


表 2-2 診断カードの LED

コンポーネント	LED ステータス
電源 1 または 2 LED はオレンジまたはレッドになります。	<p>レッドは次の状態の 1 つ以上がある可能性があることを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソケット X のプロセッサが失敗している。</li> <li>プロセッサ X は必須だが、ソケットに取り付けられていない。</li> <li>プロセッサ X がサポートされていない。</li> </ul> <p>オレンジは、ソケット X のプロセッサがすでに障害状態であることを意味します。</p>
電源 1 および 2 の LED がレッドになっている。	<p>レッドはプロセッサ タイプが一致しないことを意味します。</p>
連結	<p>レッドは PCI ライザー ボードのアセンブリが適切に装着していないことを意味します。</p>
DIMM、1 スロット	<p>レッドは次の状態の 1 つ以上がある可能性があることを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スロット X の FBDIMM が失敗している。</li> <li>スロット X の FBDIMM はサポートされていないタイプであり、別のバンクに有効なメモリがない。</li> </ul> <p>オレンジは、次の 1 つ以上の条件が存在する場合があることを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スロット X の FBDIMM が単一ビットの修正可能なエラーのしきい値に到達した。</li> <li>スロット X の FBDIMM がすでに障害状態である。</li> <li>スロット X の FBDIMM はサポートされていないタイプであるが、別のバンクに有効なメモリがある。</li> </ul>
DIMM、すべてのスロット	<p>レッドは有効なメモリまたは使用可能なメモリがシステムに取り付けられていないことを意味します。</p>
PPM	<p>レッドは統合プロセッサの電源モジュール (PPM) が破損していることを意味します。</p>
オンラインのスペア	<p>グリーンは、保護がイネーブルであることを示します。</p> <p>オレンジの点滅は、メモリの設定エラーを意味します。</p> <p>オレンジはメモリ障害が発生したことを示します。</p> <p>消灯は、保護がないことを意味します。</p>

表 2-2 診断カードの LED (続き)

コンポーネント	LED ステータス
Proc 1 または Proc 2 はオレンジまたはレッドになります	<p>レッドは次の状態の 1 つ以上がある可能性があることを意味します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロセッサが破損している。</li> <li>• プロセッサは必須だが、ソケットに取り付けられていない。</li> <li>• プロセッサがサポートされていない。</li> </ul> <p>オレンジは、ソケット X のプロセッサがすでに障害状態であることを意味します。</p>
Proc 1 および Proc 2 はオレンジまたはレッドになります	プロセッサ タイプが一致していない。
温度超過	<p>オレンジは、ヘルス ドライバがそのアラートの温度レベルを検出したことを示します。</p> <p>レッドはシステムが臨界温度レベルを検出したことを示します。</p>
ミラー	<p>グリーンは保護がメモリでイネーブルであることを示します。</p> <p>オレンジの点滅はメモリの設定エラーがあることを示します。</p> <p>オレンジはメモリ障害が発生したことを示します。</p> <p>消灯は保護が設定されていないことを意味します。</p>
ファン 1、2、または 3	<p>オレンジは冗長ファンが故障していることを意味します。</p> <p>レッドは最小ファン要件がファンモジュールの 1 つ以上で満たされていないことを意味します。1 つ以上のファンが故障しているか見つかりません。</p>

## 背面パネル

図 2-9 に、Cisco 3350 モビリティ サービス エンジンの背面パネルの細部を示します。

表 2-3 で、Cisco 3350 の背面パネルのコンポーネントと機能を識別します。

表 2-4 には、DB9 ケーブルのピン割り当ての概要を示します。



(注) 図 2-9 でラベルのない項目は、現在システムのアクティブな役割は割り当てられていません。

図 2-9 Cisco 3350 モビリティ サービス エンジンの背面パネル

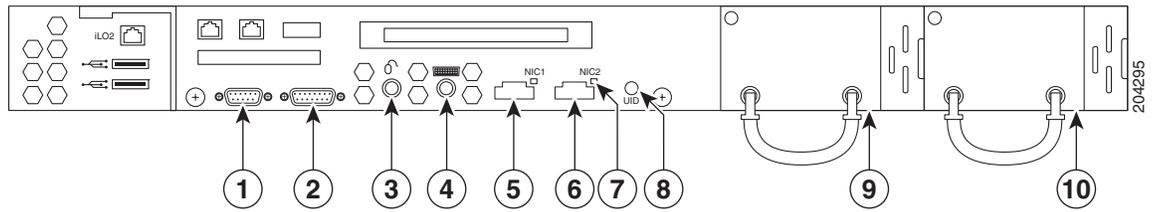


表 2-3 背面パネルのコンポーネント

番号	説明
1	コンソールの DB9 シリアル コネクタ。表 2-4 のピン割り当てを参照してください。
2	DB15 コネクタ。
3	マウス コネクタ。
4	キーボード コネクタ。
5	NIC 1 (Ethernet 0) コネクタと LED。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LED がグリーンの場合、リンクがあることを示します。</li> <li>LED が消灯の（点灯していない）場合、リンクがないことを示します。</li> </ul>
6	NIC 2 (Ethernet 1) コネクタと LED。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LED がグリーンの場合、リンクがあることを示します。</li> <li>LED が消灯の（点灯していない）場合、リンクがないことを示します。</li> </ul>
7	NIC 2 リンク ステータス LED (NIC 1 の LED と同じ機能)
8	UID ボタンと LED。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ブルーは、識別がアクティブになっていることを意味します。</li> <li>ブルーの点滅は、システムがリモートで管理されていることを意味します。</li> <li>消灯の（点灯していない）場合、識別が非アクティブであることを意味します。</li> </ul>

表 2-3 背面パネルのコンポーネント (続き)

番号	説明
9	<p>電源 2。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンは通常の動作を示します。</li> <li>消灯は、システムが消灯しているか、または電源装置が故障していることを示します。</li> </ul> <p> <b>警告</b> この装置には複数の電源装置接続が存在する場合があります。すべての接続を取り外し、装置の電源を遮断する必要があります。ステートメント 1028</p>
10	<p>電源 1。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンは通常の動作を示します。</li> <li>消灯は、システムが消灯しているか、または電源装置が故障していることを示します。</li> </ul> <p> <b>警告</b> この装置には複数の電源装置接続が存在する場合があります。すべての接続を取り外し、装置の電源を遮断する必要があります。ステートメント 1028</p>

表 2-4 DB9 のピン割り当て

ピン	割り当て	説明
1	DCD	データ キャリア検出
2	RD	受信データ
3	TD	送信データ
4	DTR	データ端末レディ
5	SG	信号用接地
6	DSR	データセットレディ
7	RTS	送信要求
8	CTS	送信可
9	Ring	リングインジケータ

## CLI コンソールの接続と使用

初期のシステム設定では、コマンドライン インターフェイス (CLI) コンソールを使用します。CLI コンソールは、モビリティ サービス エンジンの背面パネルにある DB9 コンソール ポートに接続します。図 2-9 に、モビリティ サービス エンジンの背面パネルにあるコンソール ポートを示します。背面パネルのコンポーネントについては、表 2-3 で説明しています。コンソール ポートのピン割り当てを表 2-4 に示します。



(注)

コンソール ポートを接続するには、クロスオーバー シリアル ケーブルまたはヌル モデム ケーブルを使用します。

CLI コンソール セッションに対してこれらのターミナル エミュレータ設定を使用します。

- 9600 ボー
- 8 データ ビット
- フロー制御なし
- 1 ストップ ビット
- パリティなし

## モビリティ サービス エンジンの電源投入

モビリティ サービス エンジンに AC 電源を適用すると、起動スクリプトによってオペレーティング システムと保存済みの設定が初期化されます。ユーザ ID とパスワードの入力と、キー設定の詳細の入力を要求するプロンプトが表示されます。

モビリティ サービス エンジンに電源を投入する手順は次のとおりです。

- 
- ステップ 1** AC 電源コードをモビリティ サービス エンジンの電源の背面 (図 2-9) に差し込み、もう一方の端をアース付きの 100 ~ 240 VAC 50/60 Hz 電源コンセントに接続します。
- モビリティ サービス エンジンに差し込む側の電源コードは、IEC 320 標準に準拠しています。
- ステップ 2** 前面パネルの電源オン/スタンバイ ボタンを使用して、モビリティ サービス エンジンの電源を入れます (図 2-7)。
- ステップ 3** ログイン プロンプトで、モビリティ サービス エンジンのユーザ ID とパスワードを入力します。デフォルトのユーザ ID は *root*、デフォルトのパスワードは *password* です。
- ユーザ ID とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
- これで、モビリティ サービス エンジンのオペレーティング システムにログインしました。
- 「モビリティ サービス エンジンの設定」(P.2-18) に進みます。
- 

## モビリティ サービス エンジンの設定

最小設定は、コンソールを使用して設置の一部として、モビリティ サービス エンジンで実行されます。自動インストールを使用した初期設定以外のすべての設定は、Cisco WCS で実行されます。自動インストールの詳細については、「自動インストール スクリプト」(P.2-19) を参照してください。



- (注) モビリティ サービス エンジンの初期設定時に最適なネットワーク セキュリティを確保するために、デフォルトの `root` パスワードを変更する必要があります。
- 自動設定スクリプト中にパスワードを変更するように求められます。
  - Linux コマンドの `passwd` でもパスワードを変更できます。

## 自動インストール スクリプト



- (注) これにより、ネットワーク内のモビリティ サービス エンジンの最適な動作を確保するには、すべての関連項目を初期設定時に設定することを推奨します。ホスト名と、イーサネット 0 (`eth0`) またはイーサネット 1 (`eth1`) のポートは、自動インストール中に必ず設定する必要があります。



- (注) パラメータを追加または変更するために自動インストール スクリプトをいつでも再実行できます。これらの更新のいずれかで変更しない値を再入力する要件はありません。



- (注) 項目を設定しない場合は、`skip` と入力すると次の設定手順のプロンプトが表示されます。スキップされた設定が保持され、変更されません。

画面に表示する自動インストール スクリプトを説明テキストとともに次に示します。

サンプル テキスト: コンソールに表示されるインストール設置スクリプトを示します。

本文テキスト: スクリプト内のステップについてユーザに追加情報を提供します。

ログイン `root` を入力します。

```
localhost.localdomain login:
```

パスワード `password` を入力します。

```
Password:
```

```
Setup parameters via Setup Wizard (yes/no) [yes]:
```

セットアップ ウィザードを使用する場合は **yes** と入力し、手動でパラメータを設定する場合は **No** と入力します。経験豊かな Linux システム管理者だけが、セットアップ スクリプトを使用してシステムを設定することを選択できます。角カッコ内のオプションは、デフォルトです。デフォルトを選択するには、**Enter** キーを押します。

**Yes** と入力すると、コンソールに次の情報が表示されます。

```
Welcome to the mobility services engine setup.
Please enter the requested information. At any prompt,
enter ^ to go back to the previous prompt. You may exit at
any time by typing <Ctrl+C>.
```

You will be prompted to choose whether you wish to configure a parameter, skip it, or reset it to its initial default value. Skipping a parameter will leave it unchanged from its current value. Changes made will only be applied to the system once all the information is entered and verified.

```
Current hostname=[localhost]
Configure hostname? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]:Y
```

ホスト名は、ネットワーク上のデバイスを識別できる一意の名前にしてください。ホスト名は、文字で開始し、文字または数字で終了し、文字、数字、およびダッシュだけを含みます。

```
Enter a host name [localhost]: mse-nyc
```

このデバイスが属するネットワーク ドメインのドメイン名を入力します。ドメイン名は、文字で開始し、`.com` などの有効なドメイン名サフィックスで終了します。ドメイン名には、文字、数字、ダッシュ、ピリオドを使用できます。

```
Current domain=[localdomain]
Configure domain name? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Yes]: Y
```

```
Enter a domain name [localdomain]: cisco.com
```

```
Current IP address=[209.165.201.25]
Current eth0 netmask=[255.255.255.224]
Current gateway address=[209.165.201.1]
Enter eth0 IP address [209.165.201.25]:
Configure eth0 interface parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]: Y
```

イーサネット 0 (eth0) インターフェイスの情報を入力する場合、**Yes** を入力します。



**(注)** ネットワーク管理者は、IP アドレス、ネットワーク マスク、および後続のプロンプトにデフォルト ゲートウェイ アドレスを指定できます。

```
Enter an IP address for the first ethernet interface of this machine.
```

```
Enter eth0 IP address [209.165.201.25]:
Enter the network mask for IP address 209.165.201.25.
Enter network mask [255.255.255.224]:
```

```
Enter a default gateway address for this machine.
Note that the default gateway must be reachable from the first ethernet interface
```

```
Enter default gateway address [209.165.201.1]:
```

```
The second ethernet interface is currently disabled for this machine.
Configure eth1 interface parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]:
```

2 番目のイーサネット インターフェイス (eth1) の情報を入力する場合、**Yes** を入力します。



**(注)** 2 番目のイーサネット インターフェイス (eth1) のエントリは、**skip** を入力することでスキップできます。

このマシンの 2 番目のイーサネット インターフェイス (eth1) の IP アドレスを入力します。  
Enter eth1 IP address [none]:

指定した IP アドレスのネットワーク マスクを入力します。

```
Enter network mask [255.0.0.0]:
```



(注) このマシンの 2 番目のインターフェイス (eth1) の IP アドレスおよびマスクを入力した場合は、このインターフェイスのスタティック ルーティング エントリを 2 つまで定義することもできます。スタティック ルートは通常、アウトオブバンド ネットワークを模倣するためにラボ環境で使用されるもので、幅広い使用経験がない場合は、ネットワーク内の実装には推奨されません。



(注) スタティック ルートを設定しない場合は、次に示すネットワーク アドレスのプロンプトで **none** と入力します。ネットワーク マスクとゲートウェイ アドレスを入力する必要はありません。



(注) 1 つのルートだけを設定する場合は、2 番目のネットワーク アドレスを入力するよう求められたら **none** と入力できます。2 番目のルートのネットワーク マスク、ゲートウェイ アドレスを入力する必要はありません。

eth1 のスタティック ルートを定義するためのネットワーク アドレスを入力します。

```
Enter network [none]:
```

上記で入力したネットワーク アドレスのネットワーク マスクを入力します。

```
Enter network mask [255.0.0.0]:
```

入力したネットワーク アドレスおよびネットワーク マスクのゲートウェイ アドレスを入力します。

```
Enter gateway address:
```

DNS 情報を入力します。

```
Domain Name Service (DNS) Setup
DNS is currently enabled.
No DNS servers currently defined
Configure DNS related parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]:Y
```

```
Enable DNS (yes/no) [yes]: Yes
Enter primary DNS server IP address: 209.165.201.20
Enter backup DNS server IP address (or none) [none]:
```

タイムゾーン情報を入力します。



(注) モビリティ サービス エンジン、Cisco WCS とコントローラ間の通信は Universal Time Code (UTC) 内にあります。ローカル タイムゾーンは、モビリティ サービス エンジンでログ内のイベントを検索できるように、Network Operations Center の担当者を支援するために設定されます。各システムで NTP を設定すると、デバイスに UTC 時刻が提供されます。

```
Current timezone=[America/Los_Angeles]
Configure timezone? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]:
```

NTP サーバ情報を入力します。



**(注)** モビリティ サービス エンジンとその関連コントローラは、同一 NTP サーバと同一 Cisco WCS サーバにマップする必要があります。NTP サーバは、コントローラ、Cisco WCS、およびモビリティ サービス エンジン間で時刻を自動的に同期する必要があります。

Network Time Protocol (NTP) Setup.

If you choose to enable NTP, the system time will be configured from NTP servers that you select. Otherwise, you will be prompted to enter the current date and time.

NTP is currently disabled.

Configure NTP related parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]: **Y**

Enter whether or not you would like to set up the Network Time Protocol (NTP) for this machine.

If you choose to enable NTP, the system time will be configured from NTP servers that you select. Otherwise, you will be prompted to enter the current date and time.

Enable NTP (yes/no) [no]: **yes**

Enter NTP server name or address: 1.ntp.esl.cisco.com

Enter another NTP server IP address (or none) [none]:

ログイン バナーは、ユーザがコンソールまたは SSH 経由でログインしたときに表示されます。この例では、デフォルトのバナーを示します。次のステップで、このバナーに表示されるテキストを変更できます。バナーは通常、ユーザがプライベート システムを開始していることを警告するために使用されます。

Current Login Banner = [Warning!]

Configure login banner (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]:

Enter text to be displayed as login banner. Enter a single period on a line to terminate.

Login banner [Warning!]:

Cisco Mobility Service Engine.

Remote root login is currently disabled.

コンソールからリモートルートログイン (アクセス) を設定しイネーブルにするには、次の手順に **Y** を入力します。



**(注)** リモートルートアクセスをイネーブルにした場合、シリアルおよび SSH 接続がサポートされます。ローカル モニタとキーボードアクセスは拒否されます。



**(注)** リモートルートアクセスをディセーブルにすると、ローカル モニタとキーボードの両方がシリアル接続と共に動作します。SSH アクセスはディセーブルになります。

Configure remote root access? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]: **N**

Enter whether or not you would like to allow remote root login via secure shell for this machine.

Enable remote root login (yes/no) [no]: **N**

```
SSH root access is currently enabled.
Configure ssh access for root (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]: N
```

```
Enter whether or not you would like to enable ssh
root login. If you disable this option, only console
root login will be possible.
```

コンソール ログインと SSH v2 (ssh root ログイン) を使用してリモート ログインができるようにするには、**yes** と入力します。コンソールからの *root* ログインだけを許可するには、**[no]** を選択します。

```
Enable ssh root access (yes/no): yes
```



**(注)** *ssh root* ログイン パスワードを忘れた場合、単一ユーザ モードを開始し、パスワードを変更できます。不正アクセスを防止するには、単一ユーザ モードのパスワードを定義できます。

```
Single user mode password check is currently enabled.
Configure single user mode password check (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]: Y
The single user mode is usually used for recovery
operations. For example, when the root password is
forgotten, you can log into single user mode and reset
the root password.
```

```
*****
!!WARNING!!
-----
```

```
If single user mode password check is enabled and
the root password is forgotten, the appliance
will be unusable as it cannot be logged into
successfully. Do not enable this option unless it
is required. (Press ^ to go back to previous step.)
*****
```



**注意**

単一ユーザ モードのパスワードを忘れた場合はログインできず、RMA を準備するために TAC に連絡する必要があります。

```
Enable password check for single user mode login (yes/no) [yes]: yes
```

パスワード パラメータの目的の値を入力するか、デフォルトのパラメータ値を受け入れるように **Enter** キーを押します。



**(注)** これらのパラメータは、設置スクリプト時にイネーブルにし、設定するすべてのパスワードに適用されます。

```
Login and password strength related parameter setup
Maximum number of days a password may be used : 60
Minimum number of days allowed between password changes : 1
Minimum acceptable password length : 9
Login delay after failed login : 5
Checking for strong passwords is currently enabled.
```

```
Configure login/password related parameters? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]: Y
```

```
Enter login and password related parameters.
```

```
Maximum number of days a password may be used(1-99999, 99999 means no expiry) [60]:
Minimum number of days a password may be used(0-99999, 0 means no minimum) [1]:
Minimum acceptable password length(8-10) [9]:
Login delay in seconds after failed login(0-15) [5]
Enable strong password checking? [yes/no] [yes]:
```

ルート (スーパー ユーザ) パスワードをイネーブルにし、定義するには [Y] と入力します。この手順をスキップするには、Enter キーを押します。

```
Configure root password? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]: Y
```

Enter a password for the superuser.

スーパーユーザのパスワードを入力し、再度入力して確認します。入力は表示されません。

```
Enter root password:
Confirm root password:
```

強力な (GRand Unified Bootloader (GRUB)) パスワードを設定することもできます。強力なパスワードは 9 文字以上とし、2 個の小文字、2 桁の数字および 2 個の特殊文字 (\$ や # など) を使用している必要があります。不十分なパスワードを入力すると、エラー メッセージが表示されます。



### 注意

GRUB パスワードを忘れた場合はログインできず、RMA を準備するために TAC に連絡する必要があります。



(注) 強力なパスワードがイネーブルでない場合、パスワードは任意の長さにすることができます。



(注) 強力なパスワードが設定される前に定義されたパスワードは、強力なパスワード設定の影響を受けません。強力なパスワードが設定後に設定されたパスワードだけが影響を受けます。たとえば、Cisco WCS 通信パスワード (次の例で示す) やパスワードの有効期限など、このスク립トの後半で設定するパスワードには強力なパスワードが必要になります。

```
GRUB password is not currently configured.
Configure GRUB password (Y)es/(D)isable/(S)kip/(U)se default [Skip]: Y
GRUB is the Linux bootloader. Setting a password for
the GRUB loader means that each time the appliance is
powered up, you will be prompted for the GRUB password
you configure here.
*****
!!WARNING!!
-----
If the GRUB password is forgotten, the appliance
will be unusable as it cannot be booted up
successfully. Do not configure this option unless it
is required. (Press ^ to go back to previous step.)
*****
```

Enter a password for the grub menu.

```
Enter GRUB Password:
Verify GRUB Password:
```

Password must be 9 characters long. Try again.

```
Enter GRUB Password:
Verify GRUB Password:
UP = 2, LO = 6, DIGIT = 3, PUNCT = 0
Password must contain 2 uppercase, 2 lowercase letters,
2 digits and 2 special characters. Try again.
```

```
Enter GRUB Password:
Verify GRUB Password:
```

Cisco WCS 通信パスワードをイネーブルにし、定義するには [Y] と入力します。



**(注)** このパスワードは、Cisco WCS GUI にアクセスするための個々のユーザパスワードを定義しません。このパスワードは、システム（モビリティ サービス エンジンなど）と Cisco WCS 間の SOAP/XML の認証に使用されます。

```
Configure WCS communication password? (Y)es/(S)kip/(U)se default [Skip]: Y
```

```
Enter a password for the admin user.
The admin user is used by the WCS and other northbound systems
to authenticate their SOAP/XML session with the server.
Once this password is updated, it must correspondingly be updated
on the WCS page for MSE General Parameters so that the WCS can
communicate with the MSE.
```

Cisco WCS 通信のパスワードを入力し、再度入力することによって確認します。入力は表示されません。

```
Enter WCS communication password:
Confirm WCS communication password:
```



**(注)** BIOS 不正アクセスを防止するために BIOS パスワードを設定することを推奨します。

設置スクリプトに入力されたすべての情報は画面に表示されます。

```
Please verify the following setup information.
```

```
-----
Host name= mse-nyc
Domain=cisco.com
Eth0 IP address=209.165.201.25, Eth0 network mask=255.255.255.224
Default gateway=209.165.201.1
Enable DNS=yes, DNS servers=209.165.201.20
Enable NTP=yes, NTP servers=1.ntp.esl.cisco.com
Login banner =
Cisco Mobility Service Engine.
Enable Remote Root Login=no
Enable SSH root access=yes
Enable Single User Mode Password Check=no
Password/Login parameters :
Password min length=9
Password min days =1
Password max days =60
Failed login delay =5
Strong password checking=yes
Root password is changed.
GRUB password is changed.
WCS password is changed.
-----
```

```
You may enter "yes" to proceed with configuration, "no" to make
more changes, or "^" to go back to the previous step.
Is the above information correct (yes, no, or ^): yes
-----
```

```
Setup will now attempt to apply the configuration.
Applying hostname related parameters...
Generating /etc/hosts
Running hostname mse-nyc.cisco.com
Generating /etc/sysconfig/network
```

```

Updating /proc/sys/kernel/hostname
Applying eth0 related parameters...
Generating /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth0
Applying DNS related parameters...
Generating /etc/resolv.conf
Restarting network services with new settings.
Shutting down interface eth0:
Shutting down loopback interface:
Setting network parameters:
Bringing up loopback interface:
Bringing up interface eth0:
Applying NTP related parameters...
Generating /etc/ntp.conf and /etc/ntp/step-tickers
Setting system clock from NTP.
11 Apr 15:56:59 ntpdate[15176]: step time server 209.165.201.22 offset -37.556823 sec
Synchronizing hardware clock
Generating /etc/sysconfig/clock
Applying remote root login related parameters...
Disabling single user mode login password check...

Setting password/login parameters....
Setting root password.
Changing password for user root.
passwd: all authentication tokens updated successfully.
Setting grub password...
Setting wcs password.
***Configuration successful***
We recommend you reboot the system to ensure changes are operational.
Reboot now? (yes/no) [yes]: yes
Some of your changes will only take effect after the next reboot.
Exiting setup script...
[root@sanity-lbs setup]#
Script done on Wed 30 Sept 2008 03:58:12 PM PDT

```

スクリプトの設定が画面に表示されたら、入力したすべてのセットアップ情報を確認するように求められます。**Yes** を入力して設定を進めるか、**No** を入力してさらに変更するか、または **^** を入力して前の手順に戻ることができます。

Is the above information correct (yes, no, or ^):

**yes** を入力すると、設定情報が適用されます。シスコでは、変更を適用することを確認するプロンプトが表示された場合は、システムをリブートすることを推奨します。



(注) 設定が完了すると、**\*\*\*Configuration successful\*\*\*** というメッセージが画面に表示されます。

*root* を使用して次回ログインすると、Linux シェル プロンプトだけが表示され、セットアップ スクリプトは表示されません。いつでもセットアップ スクリプトを再度実行し、*root* でログインして **/opt/mse/setup/setup.sh** を実行することによって設定を変更できます。

セットアップ スクリプトは **/opt/mse/setup/setup.log** で参照できるログ ファイルを生成します。

## NTP サーバの設定

NTP サーバを設定して、モビリティ サービス エンジンの時刻と日付を設定できます。



(注) 自動インストール スクリプトの一環として、NTP をイネーブルにし、NTP サーバ IP アドレスを入力するように求めるプロンプトが自動的に表示されます。自動インストール スクリプトの詳細については、「[モビリティ サービス エンジンの設定](#)」(P.2-18) を参照してください。



(注) モビリティ サービス エンジンの設置後に、NTP サーバのインストールを追加または変更する必要がある場合、自動インストール スクリプトを再実行します。スクリプトから移動するだけで、他の値を調整せずに、NTP サーバを設定できます。自動スクリプトを再実行するには、*root* としてログインし、`/opt/mse/setup/setup.sh` を実行します。



(注) NTP 設定の詳細については、Linux の設定ガイドを参照してください。

## モビリティ サービス エンジンの起動

ブート後にモビリティ サービス エンジンを自動的に起動するように設定するには、次の手順を実行します。

```
[root@mse-server1]# chkconfig msed on
```

イメージを手動で開始するには、`/etc/init.d/msed start` と入力します

## モビリティ サービス エンジン ソフトウェアの状態の確認

モビリティ サービス エンジン ソフトウェアの状態は、いつでも参照できます。モビリティ サービス エンジンの CLI インターフェイスでは、`/etc/init.d/msed status` と入力します

モビリティ サービス エンジンが動作している場合、コマンド出力は次のようになります。

```
-----
Server Config
-----
Product name: Cisco Mobility Service Engine
Version: x.x.x.x
Hw Version: none
Hw Product Identifier: none
Hw Serial Number: none
Use HTTPS: true
HTTPS Port: 443
Use HTTP: false
HTTP Port: 80
Legacy HTTPS: false
Legacy Port: 8001
Session timeout in mins: 30
DB backup in days: 0

-----
Server Monitor
-----
Start time: Wed Sept 30 15:24:36 EDT 2008
Server current time: Fri May 30 19:08:15 EDT 2008
Server timezone: America/New_York
Server timezone offset: -18000000
```

```

-----
Service Engine (1):
-----
NAME: Location Service
VERSION: x.x.x.x
-----
Location Service Monitor
-----
Log Modules: 262143
Log Level: INFO
Days to keep events: 2
Keep absent data in mins: 1440
Restarts: 1
Used Memory (bytes): 129851856
Allocated Memory (bytes): 3087007744
Max Memory (bytes): 3087007744
DB virtual memory (kbytes): 0
DB virtual memory limit (bytes): 256000000
DB disk memory (bytes): 4128768
DB free size (kbytes): 2856
Active Elements: 0
Active Clients: 0
Active Tags: 0
Active Rogues: 0
Active Elements Limit: 18000
Active Sessions: 0
Clients Not Tracked due to the limiting: 0
Tags Not Tracked due to the limiting: 0
Rogues Not Tracked due to the limiting: 0
Total Elements Not Tracked due to the limiting: 0

```

モビリティ サービス エンジンが動作していない場合、コマンド出力は次のようになります。

```

com.aes.common.util.AesException: Failed to connect to server: http://localhost:8001
    at com.aes.client.AesClient.connect(AesClient.java:218)
    at com.aes.location.test.AesAbstractTest.init(AesAbstractTest.java:181)
    at
com.aes.location.test.admin.AesTestGetServerInfo.main(AesTestGetServerInfo.java:75)
    at sun.reflect.NativeMethodAccessorImpl.invoke0(Native Method)
    at sun.reflect.NativeMethodAccessorImpl.invoke(Unknown Source)
    at sun.reflect.DelegatingMethodAccessorImpl.invoke(Unknown Source)
    at java.lang.reflect.Method.invoke(Unknown Source)
    at com.zerog.lax.LAX.launch(DashoA8113)
    at com.zerog.lax.LAX.main(DashoA8113)
#

```

## モビリティ サービス エンジン ソフトウェアの手動による停止

モビリティ サービス エンジン ソフトウェアは、初期設定と各リポート後に自動的に実行されます。ソフトウェアを手動で停止し、再起動するには次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1 `/etc/init.d/msed stop` と入力してソフトウェアを停止します。
  - ステップ 2 `/etc/init.d/msed status` と入力してステータスを確認します。

**ステップ 3** `/etc/init.d/msed start` と入力してソフトウェアを開始します。

## モビリティ サービス エンジン ソフトウェアの更新

Cisco WCS を使用してモビリティ サービス エンジンを更新するか、モビリティ サービス エンジンに接続されたコンソール ポートを使用して、手動でソフトウェアをダウンロードすることができます。



(注)

特定のリリースの最新の Cisco WCS、モビリティ サービス エンジンの互換性および設置に関する注意事項については、次のリンクで該当するリリース ノートを参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps9742/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps9742/tsd_products_support_series_home.html)

モビリティ サービス エンジンのソフトウェアをダウンロードし、更新する前に、次の点に注意してください。

- モビリティ サービス エンジン (サーバ) イメージは圧縮されます。ソフトウェア イメージは、Cisco WCS からのダウンロード中に自動的に復元されます。
- 新たにロードされたモビリティ サービス エンジン ソフトウェアのバージョンが [Cisco WCS Mobility] > [Mobility Service Engines] ウィンドウ (リリース 5.x) に表示されるには約 5 分が必要です。



(注)

リリース 6.0 では、パスは、[Services] > [Mobility Services] です。



(注)

Cisco WCS は、モビリティ サービス エンジンの接続およびデータベース更新について、デフォルトでは 5 分ごとに照会します。

## Cisco WCS を使用したソフトウェアのダウンロード

Cisco WCS を使用してソフトウェアをモビリティ サービス エンジンにダウンロードするには、次の手順に従います。

**ステップ 1** イメージのダウンロードに、Cisco WCS または外部 FTP サーバのどちらを使用する予定でも、どちらからもモビリティ サービス エンジンに ping できることを確認します。

**ステップ 2** Cisco WCS で、[Mobility] > [Mobility Service Engines] (リリース 5.x) を選択します。



(注)

リリース 6.0 では、パスは、[Services] > [Mobility Services] です。

**ステップ 3** ソフトウェアをダウンロードするモビリティ サービス エンジンの名前をクリックします。

**ステップ 4** [Maintenance] を選択します (左側のパネル)。

**ステップ 5** [Download Software] を選択します。

**ステップ 6** ソフトウェアをダウンロードするには、次のいずれかを実行します。

- Cisco WCS ディレクトリにリストされているソフトウェアをダウンロードするには、[Select from uploaded images to transfer into the Server] チェックボックスをオンにします。次に、ドロップダウンメニューからバイナリ イメージを選択します。  
Cisco WCS は、Cisco WCS のインストール中に指定した FTP サーバのディレクトリにドロップダウンメニューにリストされているバイナリ イメージをダウンロードします。
- ローカルまたはネットワーク経由で使用可能なダウンロード済みソフトウェアを使用するには、[Browse a new software image to transfer into the Server] を選択し、[Browse] をクリックします。ファイルを見つけ、[Open] をクリックします。

**ステップ 7** ソフトウェア ダウンロードがタイムアウトになるまでの時間（秒単位、1 ~ 1800）を入力します。



**(注)** このタイムアウト設定は、モビリティ サービス エンジンへのソフトウェア ダウンロードが期限切れになる前に許容される合計時間を表します。これは、FTP のパケットのタイムアウト設定ではありません。

**ステップ 8** [Download] をクリックし、ソフトウェアをモビリティ サービス エンジンの /opt/installers ディレクトリにダウンロードします。

**ステップ 9** イメージがモビリティ サービス エンジンに転送されたら、モビリティ サービス エンジンの CLI にログインして /opt/installers ディレクトリから *.image-name* コマンドを入力してインストーラ イメージを実行します。

**ステップ 10** /etc/init.d/msed start と入力してソフトウェアを実行します。

**ステップ 11** /etc/init.d/msed stop と入力してソフトウェアを停止し、/etc/init.d/msed status と入力してステータスを確認します。

## 手動によるソフトウェアのダウンロード

Cisco WCS を使用して、モビリティ サービス エンジン ソフトウェアを手動で更新しない場合は、次の手順を実行してローカル（コンソール）またはリモート（SSH）接続を使用してソフトウェアを手動でアップグレードします。

**ステップ 1** ハード ドライブに新しいモビリティ サービス エンジンのイメージを転送します。

- a. root としてログインし、バイナリ設定を使用して、外部 FTP サーバの root ディレクトリからソフトウェア イメージを送信します。

サンプルのソフトウェア イメージのファイルの名前は *CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x-64bit.bin.gz* で、各リリースで変わります。



**(注)** モビリティ サービス エンジンのイメージは、この時点で圧縮されます。



**(注)** FTP サーバのデフォルトのログイン名は、*ftp-user* ユーザです。

次のようにエントリが表示されます。

```
# cd /opt/installers
# ftp <FTP Server IP address>
Name: <login>
Password: <password>
binary
get CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x-64bit.bin.gz
<CTRL-Z>
#
```

b. イメージ (*CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x-64bit.bin.gz*) がモビリティ サービス エンジンの `/opt/installers` ディレクトリに存在することを確認します。

c. イメージ ファイルを圧縮解除 (`unzip`) するには、次の手順を実行します。

```
gunzip CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x-64bit.bin.gz
```

圧縮解除により *bin* ファイルが生成されます。

d. *CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x.bin* ファイルに `root` ユーザの実行権限があることを確認します。権限がない場合は、次の手順を実行します。

```
chmod 755 CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x.bin
```

**ステップ 2** 手動でモビリティ サービス エンジンを停止するには、`root` としてログインし、次のように入力します。  
`/etc/init.d/msed stop.`

**ステップ 3** 新しいモビリティ サービス エンジンのイメージをインストールするには、次のように入力します。  
`/opt/installers/CISCO-MSE-L-K9-x-x-x-x.bin`

**ステップ 4** 新しいモビリティ サービス ソフトウェアを起動するには、次のように入力します。  
`/etc/init.d/msed start`



#### 注意

システムから指示がない限り、スクリプト ファイルをアンインストールする次の手順を実行しないでください。ファイルを削除すると、必要以上に履歴データを消去します。

**ステップ 5** モビリティ サービス エンジンのユの スクリプト ファイルをアンインストールするには、次のように入力します。

```
/opt/mse/uninstall
```

## 失った root パスワードの回復

モビリティ サービス エンジンの `root` パスワードを忘れた場合、次の手順を実行します。

**ステップ 1** GRUB 画面が表示されたら、ブート メニューを開始するため、`Esc` を押します。



#### 注意

GRUB パスワードを忘れた場合はログインできず、RMA を準備するために TAC に連絡する必要があります。

**ステップ 2** `e` を押して編集します。

**ステップ 3** 「kernel」で始まる行に移動し、`e` を押します。

行の終わりにスペースと数字の 1 (**1**) を入力します。Enter を押して、この変更を保存します。

**ステップ 4** b を押して起動シーケンスを開始します。

起動シーケンスの最後に、シェルプロンプトが表示されます。



---

**(注)** 単一ユーザモードのパスワードを設定した場合は、シェルプロンプトは表示されません。

---

**ステップ 5** **passwd** コマンドを入力すると root パスワードを変更することができます。

**ステップ 6** 新しいパスワードを入力し、確認します。

**ステップ 7** マシンを再起動します。

---